科目番号 M3701	授業科目名: 表現文化学研究 I	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
前水 3	Higher Studies in Culture and Representation	荒木 映子 非常勤講師	2 単位
	I		

# ●科目の主題

1980 年代から 90 年代にかけて流行った「ポストモダン」「ポストモダニズム」という言葉の意味を再考し、今日におけるその展開・変容を考える。

### ●到達目標

ポストモダンについての知見をもとに、啓蒙と進歩と理性の物語が崩壊したことが実感される今、文学やアート、哲学に何ができるのかを議論する。到達地点はない。

## ●授業内容·授業計画

以下の計画に従って、講義、文献講読、議論をする。

## ●評価方法

授業中の発表とレポート

### ●受講生へのコメント

「ポストモダニズムの展開・変容」では、医療、介護、震災、原発等の問題との関連を考えているが、受講生の興味に応じて対応する。

#### ●参考文献·教材

Hal Foster(ed), The Anti-Aesthetic: Essays on Postmodern Culture(1983; N.Y.: The New Press, 1998) ハル・フォスター『反美学/ポストモダンの諸相』(勁草書房)

ジャン=フランソワ・リオタール『ポストモダンの条件』(書肆 風の薔薇)

テリー・イーグルトン『ポストモダニズムの幻想』(大月書店)

横川善正『ホスピスが美術館になる日』(ミネルヴァ書房)

その他授業中に指示

科目番号 M3703	授業科目名: 表現文化学研究Ⅱ	担当教員名:	単位数
開講期前火 2	英文名: Higher Studies in Culture and Representation	小田中 章浩 教授	2 単位
	П		

#### ●科目の主題

フランスのベル・エポックにおける文化の諸相

### ●到達目標

与えられた研究テーマに関するリサーチならびに報告、ディスカッションを行うことにより、表現文化学的な研究の 手法を身につけること。

### ●授業内容・授業計画

Roger Shattuck, *The Banquet Years, The Origins of the Avant-Garde in France, 1885 to World War I*, 1955 (revised edition,1968) を読む。今年度は、PART TWO のうち、Henri Rousseau, 1844-1910 (pp.45-112)を訳読しつつ、「ベル・エポック」と称される十九世紀末から二十世紀初頭のフランスにおいて、税官吏ルソーを通じて眺めたフランス絵画の動向、および関連する文化の諸相について理解を深めることを目指す。

# ●評価方法

受講生は、毎回指定された担当箇所を訳すだけでなく、必要に応じて関連した事項についてリサーチを行い、報告することが求められる。評価は、毎回の授業において、各自が与えられた課題を確実に達成したかどうかに基づいて行う。

# ●受講生へのコメント

受講生の専門分野に考慮して、リサーチの対象については柔軟に対処する。

## ●参考文献・教材

上記の文献は、当初は必要箇所をプリントで配布する。

科目番号 M3704	授業科目名: 表現文化学研究演習 2	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		

and Seminar in Culture an	:火3 H	
	I	

### ●科目の主題

19世紀末から20世紀初頭の西洋における身体表象

## ●到達目標

受講生が、自らの専門分野に応じて、与えられた問題系を自らの問題へと再設定し、研究を展開する能力を身につけること。

# ●授業内容·授業計画

19世紀末から20世紀初頭の西洋において、表象されたものとしての身体観がどのように変化したかについて、スポーツ、絵画、舞踊、あるいは他の表象文化を取り上げて考察する。

### ●評価方法

評価は授業におけるリサーチの達成度、発表の成果に基づいて行う。

# ●受講生へのコメント

改めて指摘するまでもなく、本演習は受講者の自主的な取り組みに基づいて展開されるものであり、一方向的に何かが「与えられる」ものではない。

# ●参考文献·教材

必要に応じてプリントを配布し、リサーチすべき資料を提示する。

科目番号 M3705	授業科目名: 表現文化学研究Ⅲ	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
後木3	Higher Studies in Culture and Representation	野末 紀之 教授	2 単位
	Ш		

### ●科目の主題

笑いとユーモアにかんする理論的考察を行なった論文を読み、理論が現代の笑いの分析にどれほど有効か、考察を加える。

### ●到達目標

論文を一本読み、その視点の有効性や論述の問題点を指摘する。有効であれば、各自選んだテキストの分析に活用する。

### ●授業内容•授業計画

「笑い」を現代的見地から考察した論文を精読し、その問題点と有効性を議論する。受講生には、「笑い」を喚起する作品を各自の関心から選び、分析してもらう。

#### ●評価方法

出席、発表、レポートを総合的に評価する。

#### ●受講生へのコメント

十分な予習が必要。また、言及される作品にできるだけ目を通してほしい。

# ●参考文献·教材

テキスト未定。プリントを配布する。

科目番号 M3706	授業科目名: 表現文化学研究演習 3	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
前木3	Higher Studies and Seminar in Culture and	野末 紀之 教授	2 単位
	Representation 3		

#### ●科目の主題

「笑い」にかんして現代的視点から書かれた論文を精読し議論しつつ、さまざまなメディアにあふれている「笑い」を分析する視点を養う。

#### ●到達目標

論文を一本読み、その視点の有効性や議論の問題点を指摘するとともに、みずから選んだテキストの分析に活用する。

# ●授業内容・授業計画

「笑い」にかんする現代の研究者の論文を読みすすめながら、随時、受講生による発表を織り交ぜる。

# ●評価方法

出席、発表、レポートを総合的に評価する。

## ●受講生へのコメント

言及される作品を通読すること。

#### ●参考文献·教材

教材は未定。プリントを配布する。

科目番号	授業科目名:		
M3707	表現文化学研究IV	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
後木4	Higher Studies in Culture and Representation	三上 雅子 教授	2 単位
	IV		

# ●科目の主題

「異化」という概念を用いて、広くジャンル横断的に現代芸術・現代文化の諸問題を考察する。

#### ●到達目標

芸術作品・芸術家の活動に関して、社会的・歴史的・ジャンル横断的観点から複合的に分析・研究する方法論の習得を目指す。

### ●授業内容・授業計画

20 世紀ドイツの劇作家ベルトルト・ブレヒトが唱えた「異化効果」という概念は、現代では演劇のみならず、映画・美術・小説など様々な分野において現代芸術を論じるときに、広く文化圏を超えて使われる用語となっている。本授業では、「異化」という概念から、現代芸術の諸問題について考察する。日本語・英語の文献を使用する。

#### ●評価方法

おもにレポートによるが、平常点も加味する。

### ●受講生へのコメント

特になし。

# ●参考文献·教材

授業中に適宜指示する。

科目番号	授業科目名:		
M3708	表現文化学研究演習 4	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
前火 4	Higher Studies and Seminar in Culture and	三上 雅子 教授	2 単位
	Representation 4		

#### ●科目の主題

本授業では参加者による事例研究に基づいた発表を中心とする。

#### ●到達目標

表現文化学研究に必要な方法論を確認するとともに、学会発表や論文執筆にあたって必要とされるスキルについても、学んでいく。

#### ●授業内容・授業計画

20世紀の諸芸術ジャンルに関して、受講生に個別発表を行ってもらう。

### ●評価方法

発表 35% レポート 65%

#### ●受講生へのコメント

発表に際しては、依拠すべき論文等について充分調べておくこと。

## ●参考文献·教材

授業中に指示する。

科目番号 M3709	授業科目名: 表現文化学研究 V	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
前木 2	Higher Studies in Culture and Representation	海老根 剛 准教授	2 単位
	V		

# ●科目の主題

前期の授業では、代表的なテクストの講読を通じて、映像文化研究の新しい動向を概観します。

# ●到達目標

映像文化研究の最近の動向を知り、みずからの研究に活かしてく。

## ●授業内容・授業計画

テーマごとに適宜、英語文献と日本語文献をとりまぜて読んで行く予定。必要に応じて、作品の上映と分析も行う。

# ●評価方法

発表とレポートによって評価する。

### ●受講生へのコメント

専門分野を問わず映像文化研究に関心のある学生の受講を歓迎します。

各自、自分の研究テーマと関連づけながら文献を読み、理論的視野を広げる機会として授業を活用してください。

# ●参考文献·教材

プリントを使用。

科目番号 M3710	授業科目名: 表現文化学研究演習 5	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
後月 2	Higher Studies and Seminar in Culture and	海老根 剛 准教授	2 単位
	Representation 5		

#### ●科目の主題

近代は「国民国家」の時代であったが、それはまた「芸術」の時代でもあった。そして、現在、「国民国家」の輪郭が曖昧になっているように、「芸術」の輪郭もまた不鮮明になりつつある。「ネーション」にかわって「コミュニティ」が浮上するのに符合して、実に多様な――「芸術か否か」という問いをどうでもよいものとするような――「創作活動」が「芸術」にとって代わりつつあるようにみえる。この演習ではコミュニティの前景化と芸術の後景化をひとつの歴史的変容の両面として考える糸口を探ってみたい。

#### ●到達目標

歴史的な視点をも導入しながら、現代の創作活動を考察する生産的な視点をさぐる。

# ●授業内容·授業計画

文献講読と具体的な創作物の考察を交互に行っていきたい。

#### ●評価方法

発表とレポートによる。

### ●受講生へのコメント

現代の創作活動に関心のある院生ならば専門分野を問わず受講を歓迎する。特に最近の創作活動については、受講者からの問題提起を期待する。

### ●参考文献·教材

適宜、指示する。

科目番号 M3711	授業科目名: 表現文化学研究VI	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:		
後水 3	Higher Studies in Culture and Representation	高島 葉子 准教授	2 単位
	VI		

# ●科目の主題

『指輪物語』の原作と映画化作品におけるヒーロー像を考察する。

#### ●到達目標

原作と映画化作品の比較考察の方法と可能性を学ぶ。

# ●授業内容·授業計画

『指輪物語』の原作と映画のヒーロー像に関して論じた文献を読む。文献の各章の論点を担当者に報告してもらい、その内容について全員で討論することによって理解を深める。学期末には、各自問題設定をしてレポートをまとめてもらう。

# ●評価方法

出席状況、発表、討議への参加ど、レポートに基づいて評価する。

### ●受講生へのコメント

討論での積極的な発言を求める。『指輪物語』の原作と映画にあらかじめ目を通しておくことが望ましい。

# ●参考文献·教材

Lynnette R. Porter, Unsong Heroes of the Lord of the Rings:From the Page to the Screen, 2005

科目番号 M3712	授業科目名: 表現文化学特殊研究	担当教員名:	単位数
開講期 前集中	英文名:	河本 真理 非常勤講師	2 単位

### ●科目の主題

西洋近現代美術(主に20世紀美術)の諸相を、年代順に追うのではなく、鍵となる概念(抽象、コラージュ、綜合芸術作品、偶然、複製とアウラ…)を通して浮かび上がらせます。

### ●到達目標

西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語をおさえ、その歴史的文脈(コンテクスト)を理解します。

## ●授業内容·授業計画

基本的には、西洋近現代美術についてテーマ別に論じますが、本学で西洋近現代美術の通史の講義を受ける機会がないことを考慮して、最初に簡単に通史を概観する準備段階を設けます。

#### ●評価方法

授業中に扱った内容から興味のあるテーマを選び、必ず具体的な作品分析を踏まえたレポートを提出すること。 註・参考文献を明記し、インターネットのサイトからの文章のダウンロードは不可。図版・キャプションも付けること。 レポート(80%) および出席点(20%)。

### ●受講生へのコメント

講義は、講師が作成したプリントを基に、パワーポイントで提示する作品の画像に解説を加えながら進めます。 講義中に見せた画像をプリントアウトしたものは配布しないので注意すること。

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』の該当する部分や、高階秀爾『近代絵画史(上・下)』(特に下巻)をあらかじめ読んで、通史の大まかな流れを理解しておくと、テーマ別の講義を一層理解しやすくなります。講義の後、受講者が各自興味を持ったテーマについて、指示された参考文献等を読んで調べることが望ましいです。なお、集中講義は9月後半開講予定です。

# ●参考文献·教材

教科書:河本真理『葛藤する形態―第一次世界大戦と美術』人文書院、2011 年。参考文献:『世界美術大全集 西洋編』小学館、1992~1997 年。

E. H. ゴンブリッチ 『美術の物語』ファイドン、2007年。

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年。

高階秀爾『近代絵画史(上・下)』中公新書、1975年。

天野知香『装飾/芸術-19-20世紀のフランスにおける「芸術」の位相』ブリュッケ、2001年。

河本真理『切断の時代―20世紀におけるコラージュの美学と歴史』ブリュッケ、2007年。

詳しい参考文献は、授業中に適宜指示します。

科目番号 M3713	授業科目名: 表現文化学総合研究 I	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:	三上 雅子 教授	
前金2		小田中 章浩 教授	2 単位
		野末 紀之 教授	

# ●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識(文化理論等)について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

# ●到達目標

表現文化学研究にあたって必要とさせる知見・学問的方法論を習得させる。

## ●授業内容·授業計画

表現文化学を研究するにあたって必要とされる文献を扱い、研究の前提となる文化理論等に関する知識を習得させる。受講生は得た知見に基づいて、研究対象・研究方法等について、討論・報告する。

# ●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

### ●受講生へのコメント

授業参加に際しては、自己の研究領域のみではなく、表現文化学研究全般における基本的概念等についても習

得・確認することを常に意識すること。

## ●参考文献·教材

授業中に指示する。

科目番号	授業科目名:		
M3714	表現文化学総合研究Ⅱ	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:	三上 雅子 教授	
後金2		小田中 章浩 教授	2 単位
		野末 紀之 教授	

### ●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識(文化理論等)について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

#### ●到達目標

総合研究 I で習得した知見・スキルの基礎の上に立って、さらに修士論文執筆に向けて総合的知見を獲得させる。

## ●授業内容·授業計画

受講生の研究分野にかかわる具体的なテーマを取り上げて講じる。受講生は、修士論文で取り組むテーマを絞り込み、研究の方向について報告する。

## ●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

# ●受講生へのコメント

修士論文のテーマについて、教員と相談しつつ準備を重ね、授業での発表にのぞむこと。

### ●参考文献·教材

授業中に指示する。

科目番号 M3715	授業科目名: 表現文化学研究指導 I	担当教員名:	単位数
開講期	英文名:	三上 雅子 教授	
前金3		小田中 章浩 教授	2 単位
		野末 紀之 教授	

#### ●科目の主題

表現文化学の修士論文作成の指導を行う。

### ●到達目標

修士論文作成に必要な知見・方法論等に習熟させる。

### ●授業内容·授業計画

研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

(三上雅子教授)現代演劇ならびに映画等を対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に 立脚して研究することを指導する。

(小田中章浩教授)フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究等を対象ろとし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。

(野末紀之教授)19 世紀以後のイギリスを中心とする言語表現および身体表象、身体を重要な契機とする現代日本の言語文化を対象とし、それらにかんする論文作成、発表、研究について指導を行なう。

### ●評価方法

授業での発表等で評価。

# ●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談しつつ綿密な計画を立ててのぞむこと。

# ●参考文献·教材

授業中に指示する。

科目番号	授業科目名:		
M3716	表現文化学研究指導Ⅱ	担当教員名:	単位数

開講期	英文名:	三上 雅子 教授	
後金3		小田中 章浩 教授	2 単位
		野末 紀之 教授	

## ●科目の主題

表現文化学の修士論文作成の指導を行う。

### ●到達目標

研究指導Ⅰで習得した知見・方法論の基礎の上に立って、修士論文を完成させる。

# ●授業内容·授業計画

研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

(三上雅子教授)現代演劇ならびに映画等の非言語的テクストを対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。

(小田中章浩教授)フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。

(野末紀之教授)19 世紀以後のイギリスを中心とする言語表現および身体表象、身体を重要な契機とする現代日本の言語文化を対象とし、それらにかんする論文作成、発表、研究について指導を行なう。

### ●評価方法

授業中の発表に基づいて評価する。

# ●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談のうえ綿密な計画をたててのぞむこと。

# ●参考文献·教材

授業中に指示。